

## カメラ用除菌剤“アヨカ”が誕生するまで…シンテン・山口社長

アメ横カメラとシンテンが共同開発したカメラ用除菌剤“アヨカ”の記事を掲載したところ加賀ハイテックから「にわか人気だが除菌力と消臭力に優れる“ピースガード”が売れている」という参考情報が寄せられた。昨年暮れはノロウイルス。年明けはインフルエンザが蔓延。除菌剤が注目されているが、カメラ用除菌剤は中古カメラだけでなく、多数の人の手に触れる量販店も展示在庫を清潔に保つために、必須アイテムになりそうだ。

一部既報のようにアヨカを開発したシンテンは遊園地など遊具や公共施設の保守点検や修繕を手掛ける企業。山口正吉社長はキヤノンでAE-1などフィルム一眼の開発に携わり、社長賞を何度も獲得した技術者だが「キヤノン時代、公園で写真を撮っていたら目の前で遊具事故が起きた」ことがきっかけでキヤノンを退社。安全に子どもたちが遊べる場所を維持するために会社を設立。売上の一部をNPO法人子ども育成支援協会に寄付。子どもたちにフィルムカメラを使った写真教室を行う活動もしている。

**アヨカ開発のきっかけ** 山口社長の趣味はカメラの収集。全国の中古カメラ店を回っているが、中古専門のアメ横カメラに行った時「ものもらいがある人がファインダーを覗くが、ものもらいをうつしてしまったら大変。いつもカメラを清潔に保つ方法はないものか」と相談されたことが、アヨカを開発するキッカケ。

シンテンは保守点検事業として除菌を行っており、子どもたちの健康に害がない薬剤を探しているうちに次亜塩素酸に行きつき、独自の除菌剤を開発した。次亜塩素酸はノロウイルスの除菌で注目された薬剤だが、同社は“じょきん丸”。女性向け除菌消臭剤“じょきん子”を販売しているが、独自の除菌技術を活用してアヨカの開発がスタートした。

次亜塩素酸の除菌力は既存の除菌剤で明らかだったが、カメラに使うと金属部分に変色したり、プラスチック部分が変形したりするため既存の調合では使えないことが判明。試行錯誤を

繰り返してもカメラに使える段階にならない状況が続いている時、キヤノン時代、カメラを綺麗に仕上げる工程で特殊な溶剤を使っていたことを思い出した。カメラを仕上げる工程を思い出しながら、独自の調合をしたところ問題が一気に解決。山口社長がコレクションする1,000台以上のカメラで実証実験を行う一方、アメ横カメラに試作品を持ち込んで店の意見を取り込んで改善。ようやく商品化に漕ぎ着けた。

アメ横カメラのホームページで公開されているアヨカの動画を見ていただければ分かるが、中古カメラや店頭での展示在庫は雑菌やウイルスだらけ。今のシーズンはインフルエンザウイルスやノロウイルス。春先はスギ花粉。夏場



は食中毒などの原因になるO-157や黄色ブドウ球菌などが付着している。高温多湿な日本ではカビがカメラの大敵だが、カビ防止にも効果がありそうなことが判明。アメ横カメラは取引のあるカメラ修理会社で使ってもらって実証実験を行っている。

**アヨカの次は 電磁波の防御** アメ横カメラの店頭では手軽に使えるようにスプレータイプを含めて様々な種類を描いている(写真)。スプレータイプを試しに買ったアドアマがボトルを購入するケースも増えてきていると云う。山口社長は「カメラ愛好家として中古カメラ店が減るのは寂しい。アヨカでカメラ屋さんの販売に貢献できれば嬉しい」と語りながら「カメラの技術者として無線LANなどから出る電磁波が野放し状態になっていることが怖い。カメラマンを電磁波から守る商品を考えている。完成したらアメ横カメラさんで販売してもらおうと思っています」と。